令和６年７月１９日

令和６年度１学期　終業式　挨拶

皆さん、おはようございます。夏らしい学期末を迎えました。皆さんにとって、１学期はどのような日々だったでしょうか。１年生は入学式がとても昔のことのように感じるかもしれませんが、まだ１００日を過ぎたところです。２年生は新クラスでの１学期で、お互いの様子を見ながらのスタートから、やっと教室内の居場所を見つけつつあるところでしょうか。３年生は高校生活最後の行事が二つ終わり、選択授業が増えたり、全国模試を受けたり、部活を引退した人もいたり、同じ小北の生活なのに、見える風景は２年生の時とは異なっているはずです。

今日はジャレド・ダイアモンドという文化人類学者を紹介します。

彼の本によると、ユーラシア大陸にいた野生馬は性格が従順で、人間に飼いならされることにも抵抗がなかったそうです。一方、アフリカ大陸にいるシマウマは名前こそ馬と呼ばれはするものの、人間の都合に合わせると、人のいうことは聞かない性格で、間違っても馬車を引いたり、人を背中に乗せて走ったりすることは絶対にしなかったそうです。アメリカ大陸では馬は絶滅しており、それに相当する動物はいませんでした。

この結果が何をもたらすかというと、馬を手に入れて遠くまで楽に移動できるようになったユーラシア大陸の人は、いわゆる「文明」を発展させるときに大きなアドバンテージを手に入れることになったそうです。今のアメリカ合衆国を自分のものにしたアングロサクソンの人たちも、中南米に押し寄せたスペインやポルトガルの人たちも、馬を使って支配を拡大しました。冒頭のダイアモンド氏によると、馬を使いこなす以外にも偶然手に入ったいくつかのアドバンテージによって、ユーラシア大陸に住む人々は人口を増やし、社会を構築することに成功し、さらなる野望をもって海の向こうに漕ぎ出します。馬以外にどんなアドバンテージがあったのかは、彼の作品名にもなっていますので、自分で調べてください。本校の図書館にも彼の作品はあります。図書館に入ってすぐ左の棚にありますから、ぜひ読んでみてください。

ダイアモンド氏によると、こうして植民地や縄張りを拡げた人たちと、生まれた土地を奪われた人たちと、世界は二分化されたとのことです。文明社会を構築する人たちのほうが何かに優れていたわけではない、支配する側には都合のよい環境があっただけなのだ、という主張です。彼は文明社会とか先進国と呼ばれる社会と、そうでないとされる社会とに分かれるのはなぜなのだろう？という問いに突き動かされて、このような研究を続けました。

さて、４月の始業式と入学式において、私は「学ぶ」という話をしました。この４か月の日々で、皆さんは何を学んだでしょうか。学ぶというと、授業で覚えたことを答案用紙に反映させることばかりが思いつくでしょうが、ダイアモンド氏が頭に浮かべた問いは、彼の一生を決める重大な学びになりました。

部活や文化祭の準備、宿題に受験勉強、と休みとは名ばかりの忙しい日々かもしれませんが、自分の一生を決めるような「学び」に出会うチャンスは普段の日々よりも格段に多いはずです。自分で見て聞いて時間があれば調べて、と自分を育てる学びができる夏休みにしてほしいと願っています。

最後に、みなさんの大切な心と体を守るための話をします。みなさんの体や心は、みなさんそれぞれ、自分自身だけのものです。その大切な心や体を他人から暴力によって傷つけられることはあってはならないことです。叩かれる、蹴られる、突き飛ばされるなどの肉体的に苦痛を感じるような行為だけが暴力ではありません。くり返し傷つく言葉を言われる、机を蹴られるなどの精神的に苦痛を感じる行為も暴力に含まれます。暴力は、どんな理由があっても、誰であっても、決して許されるものではありません。あってはいけないことなのですが、学校の先生やその他の人たちが、生徒のみなさんに対して、指導の際に、叩いたり、蹴ったりする等の肉体的な苦痛を与える行為は、体罰として禁止されています。肉体的な苦痛でなくても、繰り返し暴言や心を傷つける言葉を言ったり、机を蹴ったりして威圧する等、精神的な苦痛を与えることも不適切な行為になります。

また、相手が嫌がっているのに、体を触ったり、服で隠れている部分をのぞこうとしたり、性的な言葉を言ったり、ＬＩＮＥやメールで性的な言葉を送ったりする等、性的な言葉や行動で、人を傷つけることを、性暴力と言います。性暴力も、どんな理由があっても、誰であっても、決して許されるものではありません。

困ったことがあったら、すぐに知らせてください。もし、自分が体罰や性暴力の被害に遭いそうになったら、または被害に遭ってしまったら、一人で抱え込んだり悩んだりしないで、家族や先生、養護教諭、スクールカウンセラー等の信頼できる大人に知らせてください。性暴力を受けている相手が学校にいる先生だった場合や、体罰のことを学校に話しにくい場合には、みなさんが学校以外にも、話せる場所をつくっています。学校の先生や大人にも話しにくい場合は、１学期の最初に配った、用紙をまた配りますので、この用紙に書かれているメールアドレスやＱＲコードで読み取った先の電話番号に連絡すると、体罰や性暴力に関する話を聞いてくれて、みなさんのことを助けてくれます。また、この用紙に話したいことを書いて、糊付けをすれば、切手無しでも郵送で送ることができますし、インターネットからも回答が可能です。また、「学校生活を楽しくすごすために」という資料を配りますので、その資料に載っている電話番号に連絡して、相談することもできます。自分が体罰や性暴力受けていなくても、友だちが体罰や性暴力を受けていると思ったときも、迷わず知らせてください。校長先生も先生たちも、生徒のみなさんの心と体を大切に守りたいと思っています。そのためにも、ぜひ一人で悩まないで、知らせてください。

２学期始業式に全員ここで再会できるよう、事故や熱中症等に気を付けて日々を過ごしてください。私からの話は以上となります。